

ウルドゥー詩の近代

松村耕光

1 ウルドゥー近代詩の発展

1-1 ウルドゥー詩刷新の試み―「パンジャブ協会の詩会」―

本報告では、ウルドゥー近代詩の形成過程について簡単に紹介したいと思う。

ウルドゥー詩刷新の最初の組織的な試みは、1874年5月から1875年3月まで、ほぼ月に1回、全部で9回開催された「パンジャブ協会(Anjuman-e Panjāb)の詩会」とウルドゥー文学史上呼ばれている詩会において行われたとされている。¹

「パンジャブ協会の詩会」と呼びならわされているが、実際には、パンジャブ協会の協力を得て、パンジャブ州公教育局局長ホルロイド(W. R. M. Holroyd)が主催した詩会である。

1874年5月30日に最初の詩会が開かれたが、それに先立つ1874年4月19日に詩会開始のための講演会が開かれた。ホルロイドはその講演の中で、「この講演会は、病と衰運と不運に苦しむウルドゥー詩に発展の手段を提供するために行われた」と述べ、従来のように詩の1行(半句)を「指定の1行(miṣra'-e ʿarḥ)」として前もって示すガザル(ghazal)の詩会ではなく、²特定のテーマを前もって示す、新しい形式の詩会を開催しようと呼びかけた。³

この講演会では、「パンジャブ協会の詩会」で重要な役割を果たすことになるムハンマド・フサイン・アーザード(Muḥammad Ḥusain Āzād 1830-1910)という人物も非常に重要な講演を行った。⁴その講演内容は以下のようなものであった。

①ウルドゥー語はブラジ・バーシャー(Braj Bhāṣhā)にペルシア語

の影響が及んで成立した。ペルシア語によって多くの文学的技巧を得たが、インド的特性を失ってしまった。

②比喩を多用するペルシア語的表現法、技巧や美辞麗句を駆使する従来の表現法では意味が非常に伝わり難い。優れた表現とは、言葉や技巧の素晴らしい表現のことではなく、事物を観察して得られる思いや感情を的確に伝えることのできる表現のことである。

③新しい題材、新しい表現方法の可能性は英語の中に見られる。

④恋愛ばかりが詩の主題となっているのは悲しむべきことである。⁵

⑤ヒンドゥーもムスリムもそれぞれの言語的・文化的遺産を活用して、感動を与えるような文学の創造に努力すべきである。

以上のようにアーザードは、英語を意識しつつ——アーザード自身は英語の教育は受けていないが、少しは英語を知っていたようである——、ペルシア語文化の影響下にあるウルドゥー詩の表現法を批判し、恋愛以外のテーマで詩作するよう訴えたのであった。⁶

1-2 ウルドゥー詩人ハーリー

「パンジャブ協会の詩会」に参加した詩人の一人にアルターフ・フサイン・ハーリー (Altāf Ḥusain Ḥālī 1837-1914) という人物がいる。⁷

ハーリーが、1893年に出版された『ハーリー詩集 (Dīwān-e Ḥālī)』に付けた「詩序論 (Muqaddimah-e Shī'r-o-Shā'irī)」という長い論文もまた、アーザードの講演と並んで、ウルドゥー近代詩の形成に非常に大きな影響を与えた。

この「詩序論」の中でハーリーは次のようなことを述べている。

①詩と社会とは相互に密接な関係がある。⁸

②宮廷が詩の墮落をもたらし、嘘と誇張ばかりの詩が書かれるようになってしまった。詩のテーマは制約を受け、支配者を賛美する詩や恋愛詩ばかりになってしまった。

③詩は平易で感情がこもっていなければならない、真実に基づくものでなければならない。

④ガザルは改革されなければならない。これからのガザルは、恋愛以外の愛や愛以外のテーマでも詩作されなければならない。

⑤マスナヴィー (mathnavī) は脚韻の制約が少なく、まとまった内容について詩作することができるので最も有益な詩型である。⁹

ハーリーは、多くの政治的・社会的な詩を作ることによって実作面でもウルドゥー近代詩の形成に大きな寄与を行った。¹⁰ ハーリーはアーザードと異なり、非常に優れた詩人であったので、彼が作ったそれらの詩はウルドゥー近代詩の優れた手本となった。¹¹

2 ウルドゥー詩の近代

ウルドゥー古典詩からウルドゥー近代詩への推移を、詩型、内容、表現法の3点から簡単にまとめてみると以下のようになると思われる。

詩型：18世紀以降、ウルドゥー古典詩で最も人気のあったのは、ガザルという詩型であるが、ウルドゥー近代詩では特定の内容について書かれた詩——ガザルに対してナズム (nazm) と総称される——が主流となる。¹²

内容：ガザルでは主たるテーマは恋愛であったが、ウルドゥー近代詩では恋愛のテーマが忌避され、恋愛以外の、特に社会的・政治的なテーマが重視されるようになる。

表現法：古典詩の時代には技巧や誇張、美辞麗句をもてはやす傾向があったが、近代詩の時代になると、詩の内容を詩の読者や聞き手に的確に伝達することが求められ、表現の平易さ、解り易さが重視されるようになる。

以上をまとめると、恋愛以外の、主として社会的・政治的なテーマについて、解り易い表現を用いて作られた詩、それがウルドゥー近代詩であると言えるであろう。¹³

註

¹ 第9回詩会は1875年3月13日に開催されたが、第9回詩会が最後の詩会であったことを明白に示す資料はないようである。パンジャブ協会というのは、1865年、ラホールで設立された社会啓蒙団体である。

² ガザルの詩会では、韻律と脚韻を指定するために前もって詩の1行(半句)を提示した。ガザルはウルドゥー詩の主要な詩型の一つである。2行1組の詩句の集合体で——1行が1半句、2半句で1詩句となる——詩句数に制限はない。一つのガザルは同一の韻律で作られる。1行目(第1半句)と偶数行の行末で押韻しなければならず、押韻語の後には反復語(句)が付けられることが多い。一つの詩句だけで意味は完結しており、詩句と詩句との意味的な繋がりは通常見られない。つまり、ガザルは互いに意味的に無関係な2行詩の集合体であると言える。

³ この詩会では次のような詩のテーマが詩会に先立って示された。「雨季」、「冬」、「希望」、「郷土愛」、「平和」、「正義」、「美德」、「満足」、「文明」。

- ⁴ アーザードは、パンジャブ協会創立時からの会員で、1867年から1868年まで協会の書記を務めた。
- ⁵ ウルドゥー古典詩の中心的な詩型であったガザルでは、詩人の人生観や世界観が語られたり、春や酒席の情景描写が行われたりしたが、主たるテーマは恋愛であった。神に対する愛も詠われるので、ガザルは単純な意味での恋愛詩ではないが、恋愛抒情詩と呼べるような詩がガザルである。
- ⁶ アーザードがこの講演で述べたことは、後に出版された『生命の水 (Āb-e Hayāt 1880)』という、ウルドゥー文学界に大きな影響を与えたウルドゥー文学史の本でも繰り返し主張されている。
- ⁷ ハーリーは、アフマド・ハーン (Aḥmad Khān 1817-1898) という思想家によって始められた、歴史上、アリーガル (Ālīgarh) 運動と呼ばれる、インド・ムスリムに非常に大きな影響を与えた啓蒙運動の協力者、指導者の一人である。アリーガルは、アフマド・ハーンが拠点としていたムハマダン・アングロ・オリエンタル・カレッジ (1875年創立) のあった場所である。
- ⁸ 詩は社会の影響を受けると同時に、社会に影響を及ぼすことができるとハーリーは考えていた。ここから詩によって社会を改善しようという創作姿勢が生まれる。
- ⁹ マスナヴィーというのは、2行 (2半句) 1組の詩句の集合体である。この詩型の押韻形式はガザルとは異なり、各行 (半句) 末で押韻する。一つの詩句の第1半句と第2半句では同一の韻を用いるが、詩句が変われば韻を変えてもよい。押韻形式が単純なので、詩作しやすく、ウルドゥー古典詩では物語詩のような長い詩を作るときによく用いられた。アーザードやハーリーが「パンジャブ協会の詩会」のために作った詩はマスナヴィー詩型で書かれている。この詩会に参加した他の詩人たちの多くもこの詩型を用いている。
- ¹⁰ それらはマスナヴィー以外の詩型でも書かれている。
- ¹¹ たとえば、次のような詩が有名である。
- ①ムスリムの歴史的な発展と衰退を叙述した「イスラームの盛衰 (Madd-o-jazr-e Islām. 初版 1879、第2版 1886)」
 - ②未亡人のおかれた悲惨な状況を描いた「寡婦の願い (Munājāt-e bēwah. 1884)」
 - ③インド・ムスリムの墮落を嘆く「インドへの不満 (Shikwah-e Hind. 1888)」
 - ④利己主義を批判し、同胞愛の必要を説く「同胞愛の贈り物 (Tuḥfat-ul-ikhwān. 1903)」
 - ⑤女性の地位向上、女性教育の必要を訴える「沈黙礼賛 (Chup ki dād. 1905)」
- ¹² ナズムは古典詩の韻律に基づいて作られるが、ナズム固有の詩型はない。
- ¹³ 古典詩の美意識を厳しく批判する近代詩の成立によって古典詩の伝統が駆逐された訳ではない。現在でもガザルは絶大な人気を誇っている。古典詩の伝統とは別に、その伝統を批判する近代詩の新しい伝統が生み出されたと考えるべきであろうと思われる。